

最期のときまで安心して暮らせる
東京を目指して

Active Fukushima

第30号
2017.8

社会福祉法人東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会 広報誌「アクティブ福祉」

SPECIAL
REPORT

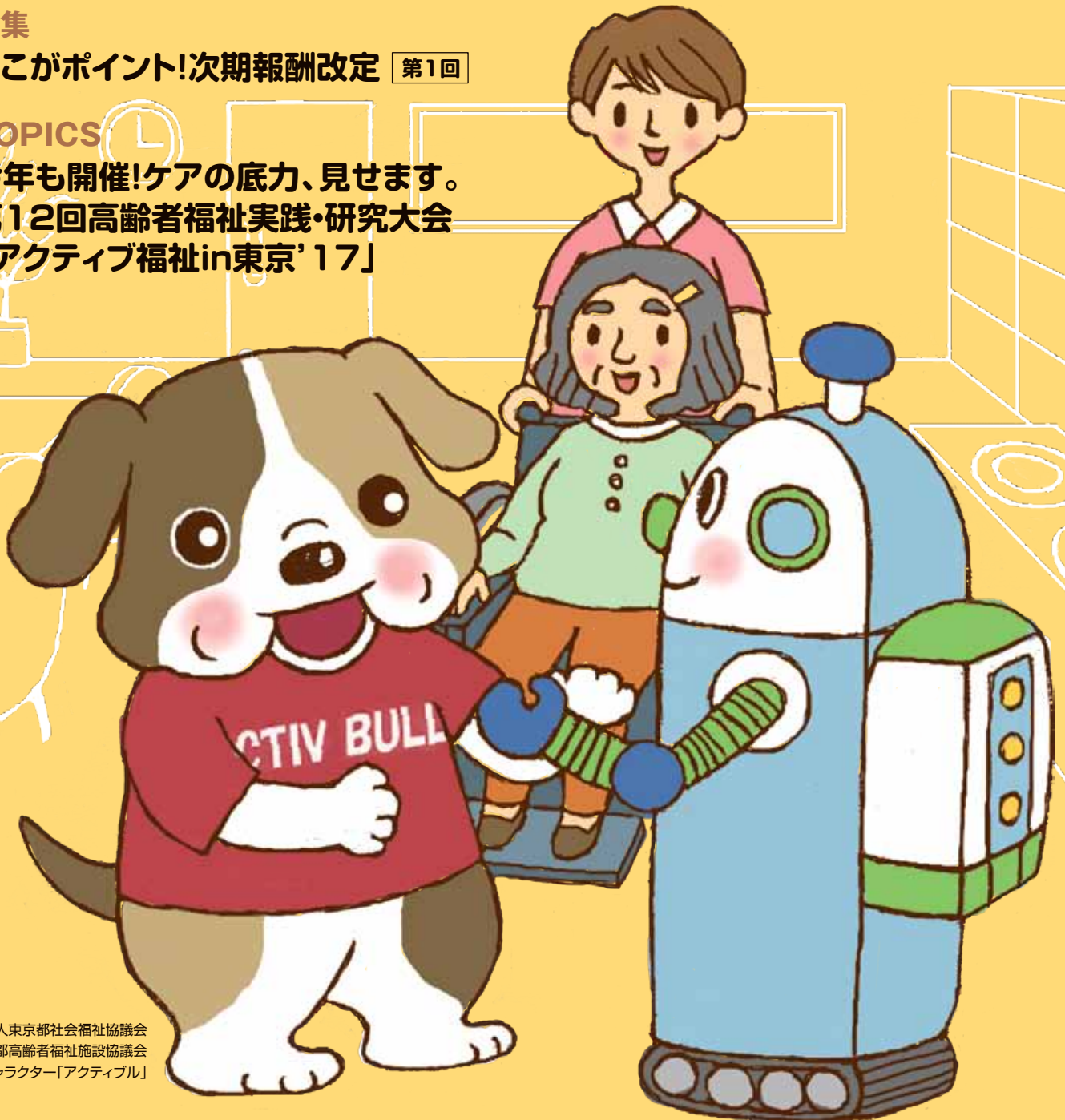
介護ロボットの実践を知る

● 特集

ここがポイント!次期報酬改定 第1回

● TOPICS

今年も開催!ケアの底力、見せます。
第12回高齢者福祉実践・研究大会
「アクティブ福祉in東京'17」



社会福祉法人東京都社会福祉協議会
東京都高齢者福祉施設協議会
マスコットキャラクター「アクティブル」

- 7ブロック合同介護職員研修会開催!
- 養護老人ホームの役割とは
- 自立型ケアハウスの現状と課題について
- 新刊紹介「デイサービスにおける機能訓練とは」

- 「東京ケアリーダーズ」メンバー紹介
- 私の心に残るエピソード
- つながれひろがれ ちいきの輪 in TOKYO 2017

人とロボットで創る 新しい介護のありかた

●社会福祉法人 シルヴァーウィング 新とみ 施設長 せきぐち 関口 ゆかり

平成25年、東京都産業労働局による「課題解決型雇用環境整備事業」の公募に採択されたことを機に、介護ロボットの導入が始まりました。

介護の現場においては、慢性的な人手不足や、高い離職率という課題があり、当法人はこれら課題に取り組むべく、介護ロボットの導入による介護職員の業務負担軽減、効率化によるケアの質向上を目指し「新しい介護のありかた」を模索してまいりました。

介護ロボットにおいては、現在20種類以上のロボットが導入されています。エレベーターのない集合住宅で、日々活用している移動支援ロボット・スカラモービルは、デイサービスの送迎で大活躍をしています。階段昇降を「おんぶ」から「移動支援ロボット」に変えたことで、職員の腰痛問題が大幅に改善しました。移乗支援ロボット・リショーンは、ベッドが中央で分離し、片側がリクライニング車椅子に変わります。これまでの「抱える、ケアから「ベッドの分離、という新しい発想のケアへの展開は、移乗、移動の安全性の向上と、業務の効率化を生みました。更に、安心・安全な移乗、移動の確保は、利用者の生活の幅を広げ、参加場面が増えたことでQOLの向上を見せています。

その他、見守り支援ロボットは、利用者の睡眠状況の把握から、転倒・転落事故を防ぐための介護職員のサポート役として活用しており、コミュニケーションロボットは、時に認知症利用者のセラピー的役割を果たしているものもあります。

一方で、活用にはまだいたらないロボットもあります。装着の手間、多様な動きに対応することの難しさ、といった課題があり、現場の声をメーカーにフィードバックしつつ、更なる開発を期待しているところです。

介護ロボットの利活用による「新しい介護のありかた」は、あくまでも人を基本とし、介護ロボットの優位性、得意性を見つけ、これら機能と協働してゆくことであり、そのための現場教育、人材の養成が不可欠であると考えます。



移乗支援ロボット・リショーン



コミュニケーションロボットとのふれあい

介護支援ロボットの導入は、 介護の未来への挑戦!

● 社会福祉法人 練馬区社会福祉事業団 大泉特別養護老人ホーム 施設長 にしおか のりこ 西岡 範子

介護の仕事は「腰痛が職業病」と言われた時代があり、練馬区社会福祉事業団では、10年前から介護士の腰痛による離職をなくすために、法人の経営方針に職員を大切にすることを掲げました。

具体的には、「移乗技術の研修」と「福祉用具の活用」を柱に、『持ち上げない介護』の実践を目指し、必要な機能の車いす等に全面的に入れ替えをしました。更に、床走行型リフトと移乗移動機等を導入して、各種の福祉用具を活用した負担軽減が図られ、『持ち上げない介護』が定着しました。

『持ち上げない介護』の定着は、新しい介護技術の習得や新しい福祉用具の活用に対する意識を飛躍的に向上させ、介護支援ロボットの導入への機運を高めることにつながっていきました。平成26年度には、福祉業界に進出し始めた介護支援のためのロボットの導入を検討し、「介護現場で活用できること」「介護現場の希望になること」を前提として、平成27年11月から介護支援ロボット『HAL[®]』を導入しました。

導入から1年半が経過し、その間には介護現場での有用性の検証とメーカーへのフィードバックを繰り返し、製品の改善と職員への使用方法や運用方法も検討を重ね、介護現場のニーズにあったものにする努力をして、現在は2台を活用しています。

介護支援ロボットを導入した効果は、介護現場の負担軽減だけではなく、人材確保にも効果が現れはじめています。多種多様な福祉用具の活用によって、負担軽減を実現できていることを実際に見学して、「介護のイメージが変わった」「安心して働けそうだ」という印象を持ち、採用につながっています。

介護は「人」が行い、ロボットは補助的な役割であることは、この先も大きく変わることはないでしょう。しかしながら、ロボットを前向きに活用して、介護士にとって有効なロボットに進化させていく努力は当事者である私たちの責任です。新しい介護への挑戦を続けることで、介護の未来に希望を見出して行きたいと考えています。



介護支援ロボット『HAL[®]』を腰に装着して負担を軽減

介護ロボットの導入・活用にむけて

～全国介護保険担当課長会議及び東京都事業より～

● 東社協 東京都高齢者福祉施設協議会 事務局

すすむ介護ロボットの導入推進

高齢化社会がすすむなかで、高齢者の自立支援や介護者の負担軽減に資する観点から、介護ロボットへの期待が増大しています。平成29年6月9日に閣議決定された「未来投資戦略2017」でも、「ロボット・センサー等の技術を活用した介護の質・生産性の向上」という内容で以下の3点が盛り込まれました。

- ① 次期介護報酬改定の際に制度上の対応を行うこと
- ② 介護ロボット等開発に関するプロジェクトコーディネーターを育成・配置すること
- ③ 再検証を行い、戦略的な開発の方向性を取りまとめ、来年度以降に反映させること

厚生労働省における介護ロボット関係事業

厚生労働省では、平成28年度から、「介護ロボット開発等加速化事業」を実施し、必要な支援を行っています。今年度は以下の介護ロボット関係事業を実施しています。

(1) 介護ロボット開発等加速化事業

- ① ニーズ・シーズ連携協調のための協議会の設置事業
開発前の着想段階から、介護ロボットの開発の方向性について介護現場と開発企業が協議し、ニーズを反映した開発の提案内容を取りまとめる協議会を設置する。
- ② 福祉用具・介護ロボット実用化支援事業
介護現場のニーズに適した実用性の高い介護ロボット等の開発が促進されるよう、専門的なアドバイスやモニター調査等を行うことにより、介護ロボットの実用化を促す環境を整備する。
- ③ 介護ロボットを活用した介護技術開発支援モデル事業
使用方法の熟知や効果的な活用方法を構築するため、介護技術の開発までを支援するモデル事業を実施する。

(2) 介護ロボットの導入支援及び導入効果実証研究事業

介護ロボットの導入支援を行い、介護業務の効率化・負担軽減効果について実証検証を実施する。

(3) 介護ロボット導入支援事業

広く一般に介護ロボットが導入されるよう、先駆的な取組みについて支援する。

(全国介護保険担当課長会議資料より作成)

東京都における介護ロボット関係事業

東京都では、介護の身体的負担の軽減や介護の質の向上、高齢者の自立支援を図るため、平成28年度からロボット介護機器・福祉用具の適切な使用方法や効果的な導入方法を検証・普及する取組を行っています。今年度は以下の取組を実施しています。

(1) ロボット介護機器 導入・活用支援事業（セットアップ事業）

ロボット介護機器の導入に対して補助するとともに、アドバイザーを派遣し、ロボット介護機器の効果的な活用方法等に関するコンサルティングを行います。

(2) ロボット介護機器 活用支援事業（フォローアップ事業）

介護ロボット等導入支援事業特例交付金を受けた都内に所在する介護サービス事業者を対象に、アドバイザーを派遣し、導入した介護ロボットの効果的な活用方法等に関するコンサルティングを行います。

（東京都福祉保健局HPより作成）

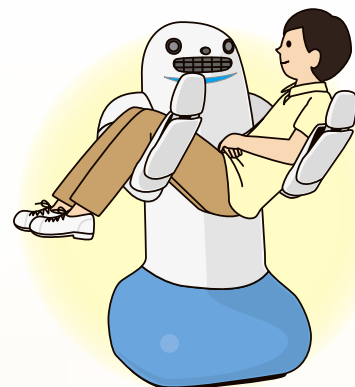
介護ロボットの導入と効果的な活用に向けて

上記のとおり、介護ロボットは、国からも東京都からも、高齢者の自立支援や介護者の負担軽減のため、導入やその活用がすすめられているところです。

東社協 東京都高齢者福祉施設協議会では、会員施設のさまざまな事例の収集や委員会での協議を行いながら、介護ロボットに関する検討をすすめていきます。

〈東社協 東京都高齢者福祉施設協議会 施設管理検討委員会 平成29年度事業計画より抜粋〉

- ・ICT・介護ロボット等活用に関するWT
 - (ア) ICTの活用による業務の効率化の検証
 - (イ) 介護ロボット等の種類と有効な活用方法の検討
 - (ウ) 「介護ロボット等導入支援特別事業」の必要性に関する検証



ここがポイント！次期報酬改定

● 淑徳大学コミュニティ政策学部 鏡 諭 教授 かがみ さとし

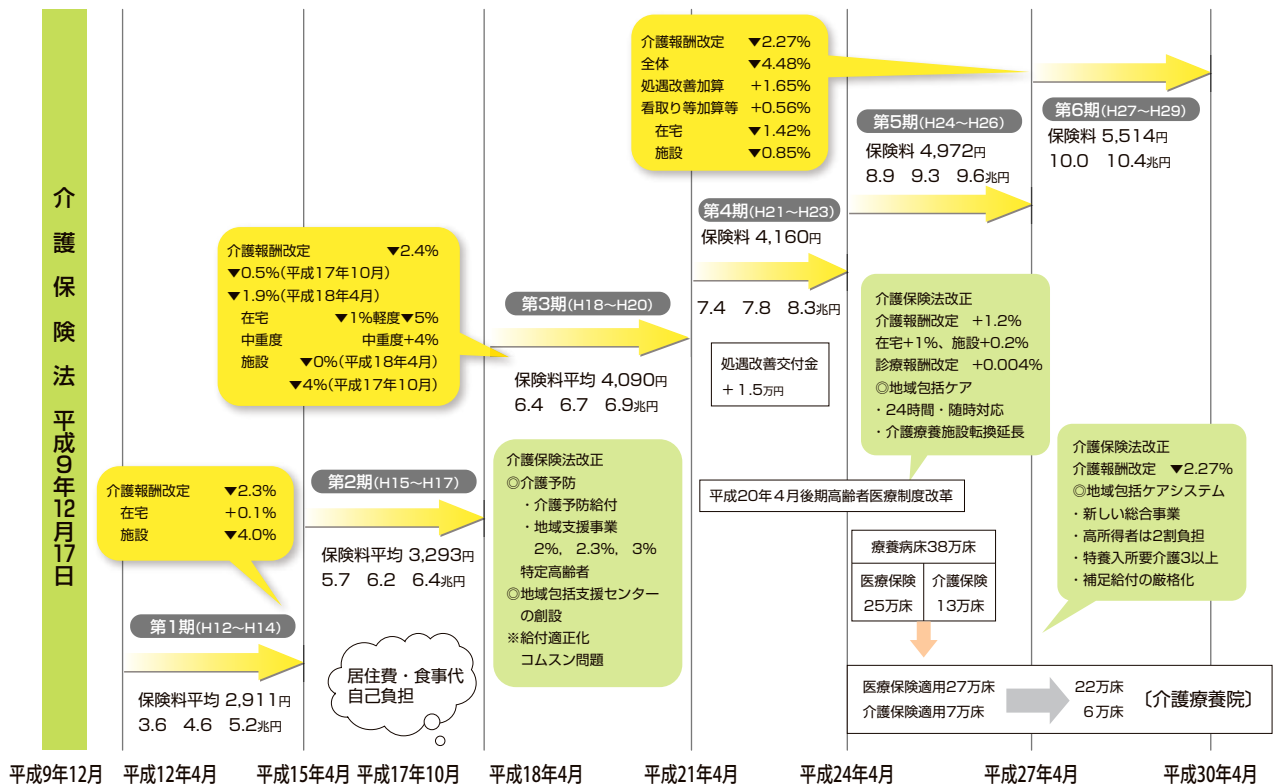
今号から4回にわたり、淑徳大学コミュニティ政策学部 鏡 諭 教授に解説いただきます。

第1回 介護保険法改正と自治体の対応

平成27年介護保険法改正によって、市町村に実施が義務付けられた介護予防・日常生活支援総合事業（以下「総合事業」）は、2年間の猶予期間を経て、全ての自治体でスタートする事となった。しかし現実には、まだ実施出来ていない自治体も約3割程度ある状況である。また、平成27年・28年に実施した自治体も必ずしも上手く行っているわけではない。むしろ多くの自治体が給付の代替えとして訪問型・通所型の事業化に止まり、厚労省が描いた多様な主体の参入は、いまだに実現されていない状況である。また、総合事業の実施により、利用者のサービス機会の剥奪となったり、報酬単価の引き下げに事業者が苦悩する姿や期待されたボランティア等の参入が見込めない等の課題も噴出している。さらに、要であった事業者の事業継続が危ぶまれている。市民の安心の仕組みとは何かについて考えていきたい。

● 財務省等による財政の締め付け

平成30年度から始まる第7期介護保険事業計画の策定に向けての議論が、社会保障審議会介護保険部会で行われた。今回の改正の特徴は、部会での議論の前提として、平成25年に提出された社会保障国民会議の報告書に基づいた財務省や官邸サイドからの要請があり、給付の見直し、負担増の枠組みがはめられていることである。厚生労働省は8月31日に平成29年度概算要求を財務省に提出した。要求額は31兆1,217億円で、対前年比2.7%増となった。うち年金や医療などの経費は29兆1,060億円。高齢化などで伸びる社会保障の自然増は6,400億円となり、政府の予算方針（骨太方針2016）では、財政健全化のため、自然増の伸びを5,000億円と高齢化の水準にとどめることを要請しており、1,400億円の圧縮が課題となった。



● 2018年改正の内容

社会保障審議会介護保険部会の議論としては、①第2号被保険者における保険料算定の総報酬割についての検討、②軽度者における生活援助・福祉用具貸与等の給付見直しについて、③介護給付における3割自己負担の導入についてであり、関係審議会等において検討し、その結果に基づいて必要な措置を講ずるとしている。これにより、各市町村で策定する第7期の介護保険事業計画や医療計画に盛り込ませるものである。

最終的に介護保険部会では、サービスの縮小は見送られたが、高所得者の負担増と介護報酬の見直しが盛り込まれた。これにより、ホームヘルパーはプロフェッショナルのサービスからボランティアが中心のサービスへ移行を目指している。さらに、医療との連携を進め地域包括ケアを実現することが標榜されており、介護の必要な状態からの脱却も目標に掲げられている。

介護保険制度の負担増と報酬の見直しシミュレーション

見直しの項目		内容		
負担増	大企業社員らの保険料アップ (2017~20年度で段階的に導入)	40~64歳の保険料に「総報酬割」の仕組みを導入		
		協会けんぽ	健保組合	共済組合
	加入している 公的医療保険	(中小企業社員 約1,437万人) 平均年収315万円	(大企業社員 約1,138万人) 平均年収456万円	(公務員 約350万人) 平均年収553万円
	月額保険料 (平均)	4,043円 ↓ 4,284円(241円増)	5,125円 ↓ 5,852円(727円増)	5,125円 ↓ 7,097円(1,972円増)
	利用料の月額自己負担の上限アップ (2017年8月~)	一般所得の世帯(単身で年金収入のみの場合) 年383万円未満の課税世帯が対象 月37,200円 → 44,400円		
	現役並み所得の高齢者の自己負担割合を3割 (2018年8月~)	年金収入のみで年383万円以上の単身者が対象 2割 → 3割		
サービス見直し	生活援助の報酬削減 (2018年4月~)	介護保険を使った掃除や調理などの生活援助サービスの報酬を引き下げ、介護福祉士やヘルパー以外の人に期待		
	福祉用具に上限額を設定 (2018年度中)	車いすや電動ベッドなどの「福祉用具」の貸与価格に上限を設け、超過分は原則介護保険の対象外		

鏡 諭(かがみ さとし)

淑徳大学コミュニティ政策学部教授。早稲田大学大学院社会科学研究所兼任講師、法政大学大学院公共政策研究科兼任講師、関東学院大学法学部兼任講師。専門は、自治体福祉政策論。1954年山形県出身、1977年所沢市役所入庁、介護福祉課主査、高齢者支援課長、総合政策部政策審議担当参事を歴任後、2009年3月退職。同年4月から現職。

ケアの底力、見せます。

第12回 高齢者福祉実践・研究大会「アクティブ福祉 in 東京'17」

東京都内の高齢者福祉施設・居宅事業所等の職員が、日頃の介護現場での取り組みや実践、施設・事業所全体での研究や個人・グループによる研究など、施設での様々な取り組みを発表する大会です。(学会形式)

とき 平成29年9月27日(水) 9:20～17:00

ところ 京王プラザホテル(新宿区西新宿2-2-1)

口演発表(8会場 計69題)

パワーポイントを使用して15分間で発表します。

ポスター発表(1会場 計10題)

ポスターを使用して7分間で発表します。



栄養・日常ケア・ソーシャルワーク・
人材育成・認知症ケア・看取り・ケ
アプラン・リハビリなど多彩なテーマ
の発表が盛りだくさん!
専門学校からの学生発表も!

ミニ講演(7会場 計7題)

有識者の先生方による短時間の講習会を開催します。テーマは、認知症ケアや人材育成など、会場ごとに異なります。

施設・法人の広報

会員施設のパンフレットを発表会場等に配架します。また、全参加者に配布する「join us!(事業所紹介資料)」に各施設の求人掲載します。

※配架・掲載には、事前の申し込みが必要です。



お仕事紹介コーナー

「ケアの魅力、話せます。」

学生参加者向けに、就職相談等を行うコーナーです。昨年結成した若手介護職ユニット「東京ケアリーダーズ」のメンバーが、学生のみなさんの質問にお答えいたします。(予約不要)

たくさんのプログラムを予定しております。ぜひお誘い合わせの上、ご参加ください。

福祉機器等展示コーナー

福祉機器・食品等の企業担当者より直接説明を聞くことができます。

ランチョンセミナー(2会場)

昼食を召し上がりながら、セミナーを聴講いただけます。

要申込・先着順(各部屋80名)

※ランチョンセミナーのみの申込はできません。



食品・衛生・ITシステム・
介護ソフト・介護ロボット等、
多様な企業が出展予定!



記念講演

「認知症の方の介護、その家族の視点」

登壇者：タレント **荒木 由美子**さん

テレビ・ラジオの司会・コメンテーターとして、また、介護や家族にまつわる講演でご活躍の荒木由美子さんにご登壇いただきます。子育てと並行しながら、長年に渡りお義母様の介護をされてきた荒木さん。介護を経験しての思いや、現在の気持ちについて語っていただきます。そして、認知症の方のご家族の視点から、福祉・介護の現場で働く人々へのメッセージをいただきます。



優秀演題の表彰ならびに授賞式

各発表会場における優秀な演題を発表し、表彰いたします。



- * 参加費：【一般】1人 6,000円 【学生】1人 1,000円
- * 昼食は各自でお取りください。(当日の弁当販売はありません)
- * 下記ウェブサイトより申込の受付を行っています。



東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会 ウェブサイト
「アクティブ福祉 in 東京」

<https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/taikai/activeNo12>

アクティブ福祉17

検索

7ブロック合同介護職員研修会

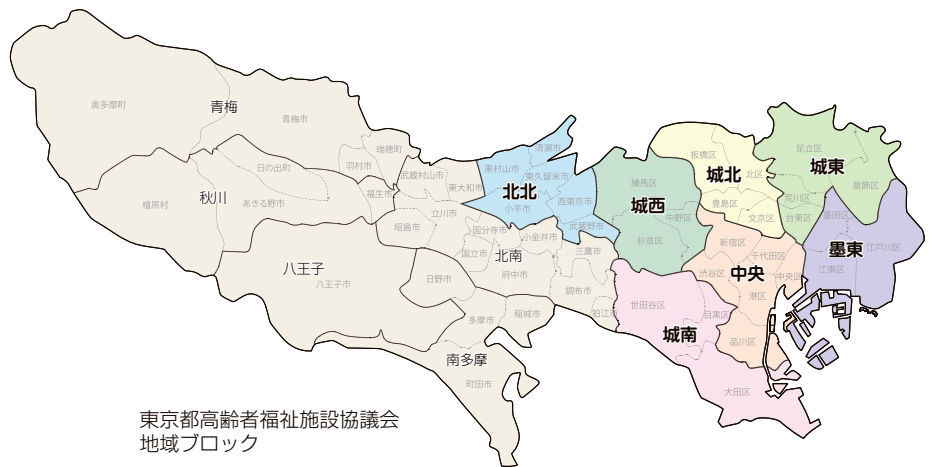
「安全な移乗介助を行うために!」開催!

●東社協 東京都高齢者福祉施設協議会
職員研修委員会 介護職員研修委員会

研修会の概要

平成29年7月7日(金)、「技術系研修による移乗介助のスキルアップと腰痛を予防するための身体の整え方」をテーマにし、中央・墨東・城東・城西・城北・城南・北北の7つのブロックで合同ブロック研修会を開催しました。主に介護職員を対象とし、定員を超える81名の参加がありました。

講師には、株式会社ウィズケアパートナーズ代表取締役の仙洞田 洋登先生をお迎えし、介助時に腰痛を予防するための構えや基礎代謝を上げる体操やストレッチ、トランスファーなどの実技を交えながら、職場ですぐに活かせる技術の習得を目指しました。



参加者の声

- 筋肉や神経の仕組みからご指導いただけただので、分かりやすかったです。
- 実技中心だったので理解やイメージがしやすく、振り返っても思い出しやすいと感じました。
- 筋肉と神経（反射）の仕組みが分かりやすく、わからない点を何度も説明していただき勉強になりました。身体の重心の大切さを再確認できました。
- 自分の身体のメンテナンス・利用者の重心を知る大切さを学びました。
- 今の施設ではあまり使用していないトランスファーの方法や職員・利用者にも無理のない方法を学べてよかったです。
- 説明だけでなく、実践がとても多かったので、身体で理解しやすく、活動的な座位やストレッチなど、ぜひ職場にも広めたいと思いました。
- 実技をまじえていて、理解しやすい説明でした。移乗時の所は、動画等あれば職場で使用したいです。

地域ブロック会の活性化にむけて

施設長を対象とした地域ブロック会だけでなく、職員向けの研修会を開催することで、今まで自施設だけで知ることのできなかった工夫や情報を知ることができます。今回も、受講者の学びたいという気持ちが多く見られる研修の雰囲気でした。今回は7ブロック合同でしたが、近隣の2~3ブロックが協力し、開催していく方法も考え、施設間の交流も重要な要素であることを認識しながら、地域ブロック会活動の活性化に取り組んでいきたいと思えます。

養護老人ホームの役割とは

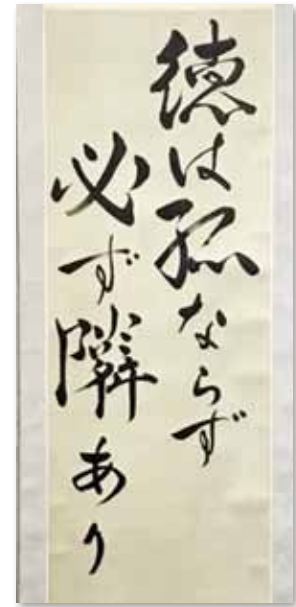
● 社会福祉法人有隣協会 養護老人ホーム千寿苑 施設長 あおほり ただし 青堀 正

当法人の理念は、「論語」里仁篇の「徳不孤、必有隣」=『徳は孤ならず、必ず隣あり』から引用しております。「徳をもって接すれば孤立することはない、必ずその徳を慕って人は集まる」に基づき、思いやりの精神と利用者の立場にたった支援の実践に努めています。「人はひとりで生きていくものではなく、喜び悲しみを分かち合いながら共に助け合って生きていくものである」という共助の心を持って、利用者、地域、そして同僚に対しても接することとしています。

養護老人ホームは、元来、自立した高齢者が入所する措置施設でしたが、介護保険の導入など様々な背景のなか、対象者が多様化し、現状の職員配置や施設設備では対応が困難な利用者も多く生活していることがあります。また、他の社会資源では対応することが難しい利用者への支援として、短期入所等の受入れをはじめ、セーフティネットとしての機能が求められています。

利用者の事情が多様化する中、それぞれのニーズに応えるべく、医療・栄養・生活等の適切な支援をはじめ、行事やクラブ等の余暇活動の改善に努めながら、利用者の高齢化、ADLの低下に伴う通院同行(施設の車を使用する送迎を含む)の増加などにも対応しなければならず、職員に求められる知識とスキルは年々増加かつ高度化してきております。また、養護老人ホームは近年定員割れが目立ち、当苑も本年2月から定員割れとなり、運営面でも厳しい現状となっておりますが、福祉施設の原点である養護老人ホームは、その時代に求められる機能や利用者、ご家族、行政、地域のニーズに沿った福祉を提供することが必要と考えます。

当苑では、養護老人ホームとして、利用者やご家族、地域、関係するすべての人に対し、当法人の理念である『徳は孤ならず、必ず隣あり』の実現に向け、職員一丸となって取り組んでおります。



地域との災害時相互応援協定により毎年実施される合同総合防災訓練

自立型ケアハウスの 現状と課題について

● 社会福祉法人 豊島区社会福祉事業団 ケアハウス菊かおる園 生活相談員 せき なつこ 関 奈津子

● 菊かおる園の現状

ケアハウスは60歳以上で自立した方が入居対象となりますが、当施設では入居時点で80歳以上・要支援や介護度を持ちながらの入居の方が多くを占めます。そのため高齢化・重度化のスピードも速いという現状があります。

● 住み慣れた場所で長く暮らせるように

入居者の中には冗談交じりに「ここで長く生活したいから追い出さないでね。追い出すと言われても出ていかない。」とお話する方がいらっしゃいます。入居者は退去の要件が「自立生活の維持が困難になった時」であることを自覚しています。また多くの入居者は身体機能の低下や認知症の進行があっても住み慣れた場所で自分らしく生活することを望みます。

このような方が滞りなく自立生活を維持できるよう、職員は日々奮闘しています。また積極的にケアマネジャーと情報を共有し適切な社会資源やサービス利用へ繋がるよう、連絡・調整等の連携を行っています。数年前に比べ、利用サービスの種類も訪問看護や訪問診療・薬の配薬など多種多様なものになっています。

● 誰かがそばにいる安心感

入居前は「体調が悪くなったらどうしよう」と毎日不安ばかりだった入居者がいます。しかし今は、入居者同士の交流や地域の交流を通して「他者との繋がり」を持つことができている。またいつでも職員に相談できるという「安心感」を得ることで穏やかに生活しています。今は「ケアハウスに入居できてよかった」と笑顔で話していただきます。

● 今後の課題

今後ますます単身者や生活困難者が増えていく一方で、当施設の入居待機者は少ないのが現状です。これは保証人不在の問題や経済的な理由、様々な施設が増え競争が激化したこと以外にも施設のアピールが不足していることがあります。安心できる「住まい」「生活支援」「他者との繋がり」を強みとして施設の役割をアピールするとともに今後は地域への働きかけや相談窓口としての役割にも取り組んでいきたいと思ひます。



ケアハウス食堂



BBQ



クリスマスパーティー

よくわかる高齢者デイサービス2 デイサービスにおける機能訓練とは

デイサービスでの機能訓練について、
全職種で読んでいただきたい一冊です。

事例を収録した
付録CD-ROM付！



〔目次〕

- 第1章 デイサービス(通所介護)とは
- 第2章 デイサービス(通所介護)における機能訓練が目指すもの
- 第3章 機能訓練とICF(国際生活機能分類)
- 第4章 個別機能訓練計画書の作成
- 第5章 個別機能訓練計画書の作成後の流れ



[1,620円(税込) / A4判・120頁]

本来のデイサービス(通所介護)の重要な役割である「機能訓練」に改めて着目し、機能訓練が目指すものや個別機能訓練計画書の作成ポイント等についてまとめました。

デイサービスを利用する方々の「その人らしい」生活の実現に役立てていただければ幸いです。

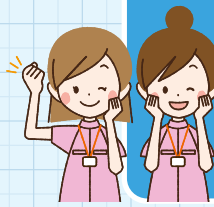
■お問い合わせ・お申込み … **東京都社会福祉協議会 図書係**

〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸1-1

TEL 03(3268)7185 FAX 03(3268)7433

ホームページからご注文いただけます！

<https://www.tcsw.tvac.or.jp/php/contents/book.php>



東京ケアリーダーズ メンバー紹介



平成28年秋に発足した若手介護福祉士で構成する東京ケアリーダーズ。
前回に引き続き、選出ブロック順にメンバーを紹介します。

城南ブロック

社会福祉法人大三島育徳会 特別養護老人ホーム 博水の郷 介護課 ユニットサブリーダー ばんもと たかや **番本 鷹也**

私は、専門学校を卒業後、「博水の郷」へ就職しました。入職8年目を迎え、ユニットのサブリーダーを務めています。

介護の仕事の魅力は、人生の最終ステージに関われることです。少しでも利用者の痛みや苦しみを和らげるように努めます。みとる家族の心のケア、そして亡くされたあとのグリーフケアも行います。ご家族のゆるる思いに寄り添えるまでは時間がかかりますが、ここが介護職員の力が試されるところです。自分の親や祖父母が迎えるときにこの経験が生きるのではと今では思っています。

私は、ケアリーダーズでの活動により、介護に興味がない人や介護をしている人にこうした魅力を伝えるべく努めていきます。



社会福祉法人友愛十字会 特別養護老人ホーム 砧ホーム 鈴蘭グループ所属 わだ みゆき **和田 美雪**

私は、社会福祉法人友愛十字会 特別養護老人ホーム 砧ホームに新卒で入社して5年目となりました。

介護というと「老老介護」「介護疲れ」…など、あまり明るい話題が聞こえてこないと思います。ですが現場では「どうしたらより良く日々を過ごしてもらえるか」と職員同士で考えてケアをしており、いつも笑顔と笑い声が絶えません。誰かの「介護」という職業・施設へのイメージが明るいものへと変わるきっかけになりたいと思い、ケアリーダーズに参加しました。



社会福祉法人老後を幸せにする会 等々力共愛ホームズ 介護職 すぎはら よしのり **杉原 美憲**

こんにちは。私は世田谷区にある等々力共愛ホームズという特別養護老人ホームにて介護職として働いています。現場では日常生活でのお手伝いや介助のほかにも、近所へお出かけやドライブをしたりと忙しいながらも充実した日々を送っています。

東京ケアリーダーズでは、そんな介護の仕事が大変だけではなくやりがいと充実感のある笑顔の絶えない仕事であるとアピールしたく活動を行っています。介護とは人の人生に寄り添う「究極のサービス業」だと思います。ご入居者様に寄り添い、時に笑い、時に涙し、他では経験することのできないかけがえのない仕事です。これからも様々な方法で介護の魅力伝えていきたいです。



社会福祉法人池上長寿園 大田区立たまがわ高齢者在宅サービスセンター きむら あやの **木村 綾乃**

私の勤めている職場は、一般通所と認知症通所のあるデイサービスです。介護職兼生活相談員として勤めています。

介護の仕事についてから、辛いことや大変なこともあります。その分多くの喜びや学びもあります。核家族化がすすみ、お年寄りと関わるのが減った若者に、お年寄りと関わって多くの学び、喜びを感じて欲しいと思っています。

介護のイメージがあまり良く思われていませんが、介護とはADLの向上だけではなくQOLの向上を目指してのケアも行っております。QOLの向上でお年寄りに笑顔と喜びを感じていただくことができます。また、その達成感や喜びを職員として働く私達は感じるすることができます。その良さを伝えていきたいと思っています。



私の心に残るエピソード

「怖がりだけど優しいKさん」

● 社会福祉法人東京玉葉会 青陽園 相談課 副主任 やまもと さおり 山本 里織

私が初めて福祉の世界に飛び込んだグループホームでKさん(男性)と出会いました。

Kさんは脳梗塞の後遺症から右半身麻痺でした。

ご家族とは音信不通で、面会者はいませんでした。職員からとても愛されているのだと、日の浅い私でも感じられました。

まだ経験の浅かった私は、Kさんは少しの事で直ぐに大きな声を出す方だと自分でも気づかないうちにKさんとの間に距離を置いてしまっていたのです。

そんな私をKさんはわかっていたのでしょうか。他の職員へは見せる笑顔や、お話を私にはして下さいませんでした。

それでもKさんの笑顔が見たい、楽しくお話をしてみたいと、Kさんへ積極的に話しかけ、側にいる時間を多くしました。

そんなある日、Kさんのお部屋でおやつのお手伝いをしていた時。ふとKさんが私に「ありがとう、本当にありがとう」とゆっくりと優しい口調で話されました。私は嬉しさとビックリしたのとで涙がぼろぼろ落ちました。

私はKさんから寄り添う事、向き合う事、思いやる事を教わった気がします。

その半年後、Kさんは天国へ旅立ちましたが、最後の最後に娘様が見つかり、駆けつけてくださいました。Kさんのお顔を見て、「こんなに穏やかな父の顔を見るのは初めてです」と話してくださいました。

我々介護に就く者は人生の最期に係る事が多い仕事でもあります。

その方の歩んできた人生、家族と向き合い、穏やかで色豊かな日常を支援していく事の大切さを教えていただきました。



今年も東京の高齢者福祉施設は、地域によりそいます!

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO 2017



つながれ ひろがれ
ちいきの輪
in TOKYO
とは

東京の高齢者福祉施設がお互いに協力しながら、地域によりそうためのイベントや交流会などを各地で一斉におこなうキャンペーンです。地域包括ケアを推進し、だれもが安心して暮らせるまちづくりのために、地域で暮らす方々がつながり、その輪がひろがることをめざしています。



キャンペーンロゴ



今年度の
エントリー状況

今年で2回目となる「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」キャンペーンですが、43の区市町村から127事業のエントリーがありました。

今年は9月～11月の3か月間を主なキャンペーン期間とし、地域交流やカフェ等をはじめとしたさまざまな事業で地域によりそいます。

今月の表紙

介護ロボットとおしゃべりするアクティブルはとっても楽しそう。
今日はどんなお話をしているのかな。
(表紙イラスト：フクモトミホ)

編集

この暑い季節を乗り切るために健康管理には十分気を配りたいものです。

後記

暑い日が続いています。「熱中症」の記事が連日報道されています。



誌面にもありますが、私たちにとって介護ロボットが身近なものとなってきています。介護ロボットは、介護事業者及び家族の介護負担を軽減する効果が見込めると期待されているので今後も注目していきたいです。

東京ケアリーダーズは、「介護の仕事の魅力」を伝えることを目的に活動しています。都内で23人が選出されている中に本法人の職員もいます。彼らの活躍により、一人でも多くの方に介護の魅力が伝わり、良しと思っております。

情報・広報室 広報戦略推進委員会
幹事

(社会福祉法人大三島育徳会
在宅サービス部長) 佐藤 朋巳